



旭神経内科リハビリテーション病院

今年度の取り組み

令和元年11月8日(金)に、ふれあいネットまつど「みんなんち」にて、当事者を従業員とした「高次脳力フエ『さくらの会』」を実施しました。当日は行政機関・医療職・ケアマネジャー・介護職員・当事者家族など計25名が来所されました。従業員は、序盤は戸惑いもありましたが、徐々に着実に接客・対応できるようになっていきました。参加された方々からは、「美味しかった」「雰囲気がいい」「BGMが良い」「丁寧な対応だった」などの意見をいただきました。また、令和2年4月より、社会復帰へ向けた集団訓練(毎週1回)を、より復職・就労を意識した内容に刷新して開始します。これまでの訓練より1段階上を目指して取り組んでいきます。

千葉県の支援拠点機関情報

千葉県内には千葉リハの他に、支援拠点機関が2つあります。毎号2つの支援拠点機関の取組みや情報を掲示板のなかで発信して頂きます。

亀田リハビリテーション病院

今年度の取り組み

2019年9月29日に亀田医療大学にて「こどもの高次脳機能障害」についての研修会を実施しました。房総半島台風のあとでしたが、多くの方が集まっていただきました。はじめに言語聴覚士二ノ形恵氏よりこどもの高次脳機能障害についての基本的な講義があり、次に体験談として、こどもの高次脳障害家族が想う支援のあり方をハイリハキッズ代表中村千穂氏、そして家族の立場として白石歩音氏に話をさせていただきました。それぞれの体験を通した貴重な話でとてもよい研修になりました。今後もこのような研修会を実施し、さらに高次脳機能障害の普及をしていきます。

9/29
こどもの高次脳機能障害研修会
(亀田医療大学にて)



■高次脳機能障害地域支援者向け連続講座2020

会場/千葉市民会館 小ホール 参加費:無料/定員:100名
日程は千葉リハホームページにて掲載します。

■当事者・家族のための高次脳機能障害勉強会2020 新企画!

会場/千葉リハ3階研修室 参加費:無料/定員:40名
日時/2020年7月15日(水)・2021年1月13日(水)午後2時～3時半
問合:千葉県千葉リハビリテーションセンター 高次脳機能障害支援センター
Tel:043-291-1831/Fax:043-291-1847



information

編集後記

■こ〜じのう掲示板的の編集に関わらせていただき、紙面の充実と配布先拡大を行い、高次脳機能障害支援の広報に取り組んできました。このたび、任務終了となり、4代目にバトンタッチすることになりました。高次脳機能障害支援は奥が深く多彩で、かつ息の長い取り組みです。支援者間の連携なくしては成立しない分野です。関係者の皆様のなご一層のご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。3年間、ありがとうございました。新型コロナ拡大が一日も早く終息することを祈っています。<三代目O>

■この時期風邪を引いたら大変。慎重に行動をして栄養、睡眠を十分にとる。それなのに運悪く風邪を引いてしまった。刻々と変化していく国の対応。高次脳機能障害をお持ちの方は、変化と制限の日常に戸惑っているのではないのでしょうか。コロナウィルスの影響で講習会、交流会が中止となり紙面の一部が変更になっておりますが、予定通り発行する運びとなりました。ところで編集長の三代目Oさんは今号をもって定年退職です。「支援者、当事者が役に立つ情報を発信する。全国に掲示板をお届けする」三代目Oさんの築いてくださったものは次の編集長と一緒に繋げていきます。お疲れ様でした。(Y)

こ〜じのう 掲示板 2020.3vol. 40

発行日■2020年3月26日

発行■(社福)千葉県身体障害者福祉事業団 千葉県千葉リハリテーションセンター
千葉市緑区菅田町1-45-2 Tel 043-291-1831(代) 内198

発行責任者■高次脳機能障害支援センター センター長 小倉由紀
http://www.chiba-reha.jp/ ※ホームページからご覧いただけます



旭神経内科リハビリテーション病院

千葉県千葉リハビリテーションセンター 高次脳機能障害支援普及事業広報誌

こ〜じのう

- 特集 日常生活の見える化する
〜こ〜じのうサポートチェックリストの紹介〜
- 支援センターだより
- イベント講習会報告など

掲示板



こ〜じのう掲示板は千葉県千葉リハビリテーションセンターや千葉県、全国の高次脳機能障害に関わる情報を紹介する広報誌です

菜の花メッセージ

菜の花メッセージは、高次脳機能障害支援にかかわる方々から、応援メッセージを頂き掲載しております。

「高次脳機能障害支援データベースの構築」

千葉県千葉リハビリテーションセンター
センター長 吉永 勝訓
よしなが かつのり



千葉リハの高次脳機能障害支援は、2001年から国のモデル事業に参加し、2006年からは県の高次脳機能障害支援普及事業における支援拠点機関としての役割を担い、2011年には高次脳機能障害支援センターを開設する、という経緯で着実に実績を上げて来ています。現在では小児・成人の外来や入院(入園)、高次脳機能障害支援センター、そして更生園や総合相談部において沢山の利用者に支援サービスを提供しており、高次脳機能障害のリハビリテーションは千葉リハの重要な役割となっていると共に、その成果を部署ごとに全国レベルの学会等で職員が発表し、高い評価を受けるに至っております。

ところが2年前に、発症(受傷)から5年経過した高次脳機能障害の方がどのくらい就労や就学に至っているか?、を私が調べようとした際に重大な問題が発覚しました。センター内の各部署が別々のリストで患者さん情報を把握しているために、センター全体の患者さんの動向を調べるのが困難でした。

そこで、本年度からセンター全体のデータベースを作成する作業を、高次脳機能障害支援センターに特別な職員を配置して行っており、千葉リハの各部署からも委員として関わってもらっています。来年度から、まずは新しい利用者についてデータベースの使用を開始し、その後は徐々に過去に遡ったデータも入力していく予定であります。近い将来、千葉リハからさらに有用な高次脳機能障害支援に関わる情報を全国に発信できる日が来ます。乞うご期待。

吉永先生の経歴・活動

【経歴】

昭和55年
千葉大学医学部卒業/整形外科専攻
昭和58年
リハビリテーション医療に従事
昭和63年
千葉大学大学院医学専攻科修了
昭和63年
Royal Perth Rehabilitation Hospital
(豪州)1年間留学
平成6年
千葉大学医学部附属病院理学療法部
文部教官・助手
平成11年
千葉大学医学部附属病院
リハビリテーション部 助教授・部長
平成17年～令和元年度
千葉県千葉リハビリテーションセンター
センター長

【活動】

・日本リハビリテーション医学会/
専門医、指導医、代議員、元常任理事
・日本脊髄障害医学会/理事
・日本義肢装具学会/社員
・日本運動療法学会/常任理事
・日本リハビリテーション連携科学学会
/副理事長
・日本高次脳機能障害学会/代議員
・日本整形外科学会/専門医

ほか

支援センターだより

高次脳機能障害支援センターの近況や支援活動などを報告します。

2019

「高次脳機能障害 地域支援者向け連続講座」が終了しました！

千葉県内の地域支援者を対象とした『高次脳機能障害地域支援者向け連続講座2019』の全体を振り返って報告いたします。

今年度初めての取り組みとして、地域支援者向けの連続講座を全5回で予定し、2/19に無事に5回目が終了しました。延べ464名、1回の講座の参加者が平均約93名、5回連続で受講していただいた方が20名程、実人数では241名の方に受講していただきました。

第1回

高次脳機能障害概論 2019/7/10

千葉リハ脳神経内科の赤荻医師より、高次脳機能障害の診断・症状・対応について講義を行いました。まとめでは、障害の程度や状態にあった環境調整や外的代償手段を獲得して生活を整えることで、社会的状況下での能力やパフォーマンスは向上すると締めくくりました。講義後はミニ体験「面談のコツ」として面談場面のVTRを見て、参加者の方が自分が支援者となって本人にお渡しするメモを作成していただきました。その後、スタッフからいくつかの例を提示しポイントをお伝えしました。

第4回

各論：社会的行動障害 2019/12/20

精神科医の先崎章先生より、社会的行動障害のある方について①支援技法のリスト②症状と対応③家族からの相談への対応④精神科につなげるには⑤精神疾患との違い、の項目に分けて具体的な考え方や支援方法のお話をしていただきました。

先崎章先生

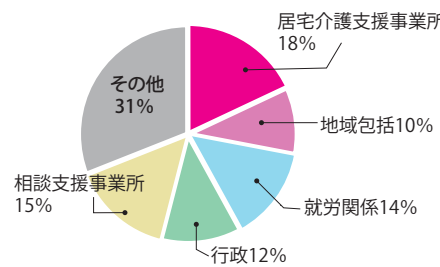
第5回

各論：高次脳機能障害と就労 2020/2/19

高次脳機能障害の方が就労を目指す場合の支援方法についてお話ししました。①職業準備性と高次脳機能障害②職場における高次脳機能障害の影響③代償手段と環境調整④自己・障害の気づき⑤職場とのコミュニケーション⑥就労後の課題⑦支援者・機関連携の必要性⑧小児期発症者への支援について、就労された当事者のインタビュー動画も交えてお話をしました。まとめのスライドが右のスライドになります。

皆様、日々のお仕事でお忙しい中でお時間をつくってご参加いただき誠にありがとうございました。今後の支援に少しでも役立てていただければ大変ありがたく思います。また、何かご質問やご相談がある際には、当高次脳機能障害支援センターへお気軽にお電話下さい。尚、来年度も上記内容に「失語症」を加えて、同様の連続講座を予定しております。開催場所が変更になり千葉市民会館での開催となります。皆様のご参加をお待ちしております。

受講者の所属(参加申し込み時)



第2回/第3回

各論：注意障害・神経疲労(脳疲労) 2019/8/21

各論：記憶障害・遂行機能障害 2019/10/16

症状と対応の説明の最後に、高次脳機能障害の方への聞き取りのテクニックとして、具体的に細かく聞いていく必要があること、またお話しする時のポイントとして①要点を短い文で、ゆっくり伝える②文字や図式化して説明する「見える化」が有効③話した内容はご本人に言ってもらい確認する、とお伝えしました。第2回のミニ体験「手順書作成」では、高次脳機能障害のAさんのためにインスタント焼きそばの作り方の手順書を参加者の方に実際に作成していただきました。その後、スタッフからいくつかの例を提示し、人によって合う手順書は異なるということを理解して頂きました。第3回のミニ体験では「こうじのうサポートチェックリスト※」を用いて、生活実態を把握するためには、具体的な項目に分けてアセスメントする必要があることを体験していただきました。各回の最後には、以下の2枚のスライドで支援者の皆様へ呼びかけました。 ※特集をご参考ください

さいごに

◆自立した地域生活とは、支援が必要でなくなるのではなく（自分の出来ることは最大限やるが）、相談・支援を依頼できるようになること

「相談したらうまく行った」という経験

◆「支援の中での自立ができています」ことが高次脳機能障害者の自立の一つの形

さいごに

高次脳機能障害の症状を理解する(本人が気づく・周囲がわかる)までには、時間がかかります。

周りを変えさせたい事ではなく、本人が取り組みたい事から。

すべての行動には理由があります。周りの理解がその方を支えます

ご参加ありがとうございました。明日からの支援に役立てて頂けたら幸いです

高次脳機能障害者の就労支援

- 高次脳機能障害者の就労および就労定着は、当事者の状況と職場環境に応じた個別的な支援を長期的に必要とすることも多い。長期的な視点の下で、現在できる支援を考えることが必要
- 就労支援機関のみでなく、例えば介護保険事業所等でも就労につながる支援ができることがある
- ひとつの医療機関や支援機関で抱えるより、医療から地域へつなぎ、支援が切れ目なく、あるいは一度切れてもまたつながるような支援が必要
- 見えにくい障害特性を理解し、支援機関・支援者がそれぞれの役割を認識し協力して当事者支援、事業所支援に関わることが望まれる

支援センターの「社会参加をめざしたグループ活動」で行っている支援のノウハウの一部を紹介します。

働くためのグループ | 『見える化』の実際を紹介します！

働くためのグループは、就労を目指す方が体験をとおして自分の状態に気づくことを目的に取り組んでいます。模擬職場という形で上司からの指示に従って業務を行い、業務終了後利用者全員でふりかえりを行うことで気づきを深めます。高次脳機能障害の方は、言葉だけでふりかえっても、話についていけない、残らない、まとまらない、ということがあります。そこで今話し合っている内容をその場でスタッフがホワイトボードに書き出し『見える化』を行います。『見える化』することで、頭だけでは整理が出来ない話が理解しやすくなります。さらに終了後にはホワイトボードに書いたふりかえり内容を写真にとってお渡ししています。後に見返すことで思い出したり、より理解を深めることにも役立ちます。この様な『見える化』は個別の面談でも行っています。何を話したのか、何が決まったのか、を簡潔にまとめてお渡しすることで、双方の理解を確認できることがメリットです。

つながるグループ | 『タイルモザイク』を使ったコミュニケーション！

つながるグループは、受症後に他者とのコミュニケーションが苦手となり社会参加が難しくなった高次脳機能障害者に対し、社会参加の準備段階として少人数で行っている集団活動です。中には身体面の配慮を必要とする利用者もいるため、作業設定に配慮を要します。今年度、新しいアクティビティとして、「タイルモザイク」を導入したのでご紹介します。

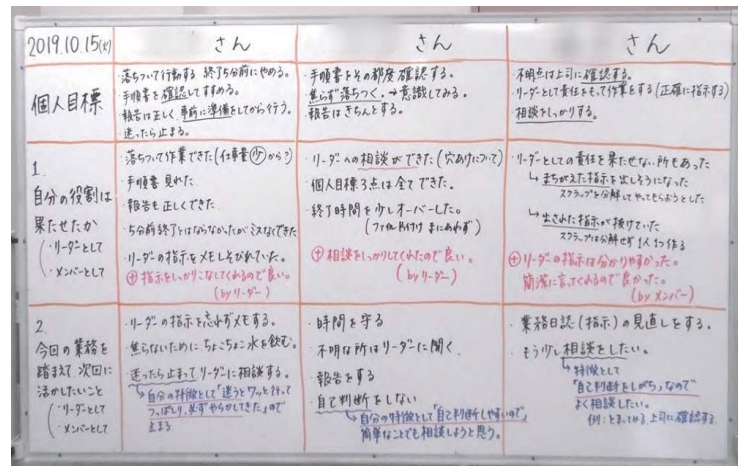
なぜタイルモザイク？

グループの目的である他者との緩やかなコミュニケーションが図れること、作業工程が目に見えてわかりやすいものという点を踏まえて取り入れました。

どんなメリットがあるの？

- ・作業工程がシンプルかつ明確で進捗も目に見える
- ・自分のペースで出来る
- ・作業に集中・没頭できる
- ・個人差、優劣が目立たない
- ・色の選び方などを相談しながら進めることにより、緩やかな交流が図れる
- ・座位や片手でも出来るため、身体に不自由があっても取り組みやすい
- ・準備や作業指導が比較的簡単で専門職でなくても取り組みやすい
- ・屋内作業なので、天候に左右されずプログラムを維持しやすい
- ・個別作業だけでなく、集団での作業としても導入できる

グループでは一枚の絵を4分割し、メンバー各々が4分の1ずつ(ひとつのパーツ)を担当して進めています。他のメンバーのパーツの色合い、進捗状況にも留意しながら進める必要があるため、自然に交流がより図れるといった効果が見られました。また、共同で取り組んだ作品が完成したことで全員が達成感を得ることができました。



▲ホワイトボードに書き出した振り返りの内容

結構な作品になって良かった

物を作るのが好きなので自分の好みの作業！

▲出来上がったタイルモザイクの作品

こうじのうサポートチェックリストってなに？

高次脳機能障害の方の日常生活は自分一人で見えるように見えていても、実はご家族が知らず知らずのうちに生活をサポートしていることがあります。そんなサポートに気づくためのツールがこのチェックリストです。

「サポートに気づく」ってどういうこと？

📍 **こういうことです ①**
高次脳機能障害は「見えない障害」!?

事故や病気の後に、“すぐ忘れてしまう”、“集中出来ない”、“思ったように話せない”、“他人の言っていることが理解できない”など、さまざまな症状が現れることがあります。しかし、**このような症状は外見からは分かりません**。そのため、周囲から理解されづらく、本人も自覚しづらいという特徴があります。

📍 **こういうことです ②**
生活の中で見えてくる障害

高次脳機能障害の方は入院中は何も困らなかったのに、退院後、急に困りごとと直面することがあります。入院中は一日のスケジュールはほぼ決められていて、その通りに行動するようになっています。一方、退院したら食事や整容、入浴といった日常生活動作、家事、外出など家庭生活や社会活動すべてにおいて「いつ、どこで、なにを、どのように」を自分で決めて行動する必要がでてきます。高次脳機能障害の方は、判断し準備したり、行動することが苦手になりやすく、それが生活のしづらさや困りごととして現れてきます。いわば**生活の中で見えてくる障害**とも言えます。

ポイント
高次脳機能障害の方の生活は、7割前後の方が日常生活動作（歩く、食べるなどの動作）は自立している一方で、契約・手続き等の社会活動の自立は1割、金銭管理や調理の自立は2割という調査報告があります。（高次脳機能障害者生活実態調査、日本脳外傷友の会、2009）。生活管理や社会活動面に支援が必要であり、家族など周囲のサポートがあって成り立っていることがわかっています。

📍 **こういうことです ③**
「見えない障害」はサポートも見えない

身体障害をお持ちの方は、外出する際に車いすや杖などを使ったり、他者による歩行や車いすの介助や見守りなどの「**目に見えるサポート**」がなされることがあります。では、高次脳機能障害をお持ちの方が外出をする際には、どのようなサポートがあるのでしょうか？例えば、忘れ物が多い方には「持ち物を事前に準備してあげる」、「忘れ物が無いかな声掛けする」などのサポートを、日常生活でごく自然に家族が行なっているかもしれません。これらは「**目に見えないサポート**」であり、「サポートを受ける側」も、「サポートをする側」も「サポートに気づきづらい」ことがあります。

身体障害



見えるサポート

高次脳機能障害



見えないサポート



“しえんちゃん”

“こ～ちゃん”

📍 **こういうことです ④**
サポートを見える化する

現在「見えないサポート」を受けながら安定して生活していても、家族のサポートが難しくなった場合に、日常生活や社会生活に混乱が生じる可能性があります。「ゆくゆくは一人暮らしがしたい」、「親亡き後が心配」など、将来に向けた備えとして日常生活での**サポートの見える化**が必要となります。普段の生活を見直し、「自力で出来ること」、「受けている「見えないサポート」を「見える化」してみませんか？

こうじのうサポートチェックリストのご紹介

●サポートチェックリストの構成、使用方法、活用方法をご紹介します。

構成 6個の大項目で構成

- ①生活リズム ④外出
- ②日常生活 ⑤生活管理
- ③家事動作 ⑥各種利用申請の手続き・契約

こうじのうサポートチェックリスト

チェックリストはこちらを検索！
PDFをダウンロードしてご使用ください。

千葉県千葉市リハビリテーションセンター 高次脳機能障害支援センター

チェック項目は3ページあります

	自分で行なう	家族がサポート準備	声掛け	手伝い	できない	該当しない	わからない
生活管理							
①気候や場に合わせた洋服を選ぶことができる							
②汚れや破損のある衣服は着ない							
⑤高額な買い物の際、適切な判断ができる							
服薬管理							
②服用時刻に忘れずに服用できる							
③服薬したことがわかる							
④自分の飲んでいる薬の内容をわかっている							
体調管理・緊急対応							
①水分などを適宜摂取できる							

使用方法 該当箇所にチェック！

判断例 ②服薬時刻に忘れずに服用できる

自分で行う	自分で忘れずに服薬できる	できない	サポートがあっても服薬できない
家族がサポート準備	アラームや貼り紙など環境調整がなされていれば、自分で服薬できる	該当しない	服薬していない
家族がサポート声かけ	家族が薬を飲むよう声かけする	わからない	把握していない
家族がサポート手伝い	家族が飲む時間に薬を渡すなどして服薬している		

活用方法

例1

Step 1：当事者、家族、支援者がそれぞれでリストをチェック
Step 2：お互いの結果を照らし合わせ、できていることやサポートの認識の差があるか確認

例2

当事者だけ、あるいは家族、支援者がチェックし、当事者の生活状況（できていることやサポート）を振り返る

こうじのうサポートチェックリスト、使用してどうですか？

～使用者の声～



2019.12.4

運転支援に関する研修会

千葉リハ 大ホール

昨年12月4日に千葉県運転免許センターからセンター長補佐と適性相談室係長のお二方をお招きして運転支援に関する研修会を開催しました。当日は医師、作業療法士など医療職を中心に112名の方にご参加いただきました。ご参加の皆様からは医療の立場として日々疑問に思っている事などの質問があり、講師の方には一つ一つの質問に対して丁寧にお答えいただきました。また、講師の方からは脳卒中等の疾病後に運転再開をする際の医療機関に求める役割について明確に説明がありました。

今回のような機会を持つことで、医療側と運転免許センターの双方がどのように考え、どのような事で困っているかが分かり、連携が強化されると感じました。実施後アンケートでも多くの皆さまから「連携強化のために研修会を定期的に実施して欲しい」とご意見いただき、その旨を千葉県運転免許センターへお伝えしたところ、実現に向けよいお返事をいただいております。今後も各機関にご協力いただき、医療機関と運転免許センターに限らず、運転再開支援に関わる機関(教習所協会など)との連携強化の一環として研修会を開催したいと思います。



2020.1.22

見学研修

千葉リハでは全国の病院からの運転支援見学を受け入れています。今号では見学をされた方から感想を頂きましたので紹介します。寄稿ありがとうございました。

甲州リハビリテーション病院
作業療法士 三澤陵 様



山梨県において運転は、社会参加に密接に関連していますが、運転再開における支援体制はまだ整っていません。今回、センターにおける支援体制や私達の疑問に対して、一から丁寧に教えていただき、日々臨床で抱えていた悩みがすっきりしました。教習所を始め、他職種を巻き込んだ支援体制作りや、公安委員会との連携、地域における社会資源の情報収集等、私達がこれから取り組むべき内容が明確になり、より一層支援体制作りに関心を持っていました。今回、私達のために貴重な時間をさいいただき、本当にありがとうございました。

山梨リハビリテーション病院
作業療法士 野上雅史 様



この度は、自動車運転支援の見学という貴重な機会を実施していただきまして、誠にありがとうございました。山梨県は千葉県同様に自動車運転が必須な社会環境でありながら、その支援体制は未だ万全ではありません。また、支援だけでなく、運転の代替手段の検討・普及も求められています。今回の貴センターでの視察は、山梨県の直面する問題に対し、一つの方向性を示していただいた貴重な見学となりました。この機会を一つの契機として、山梨県の自動車運転支援に尽力していきます。今後とも末永いご支援・ご協力をお願い申し上げます。

第43回日本高次脳機能障害学会学術総会

2019.11.28-29

仙台国際センター



本学会では、高次脳機能障害に関する幅広い取り組みが発表されました。シンポジウムやセミナーでは認知症や自動車運転について、口述・ポスター発表では医療から福祉まで多岐にわたった支援の報告がされ、他機関の取り組みを知ることが出来ました。支援センターからは過去最多となる5演題、実事評価、青年期支援、家族支援、就労支援についての取り組みを発表し、多くの参加者からのご意見、感想を頂く事が出来ました。役割の再確認と今後に期待されることについて考える有意義な機会となりました。

第4回高次脳機能障害就労支援研修会

20120.1.9 13:30-16:30

千葉リハビリテーションセンター



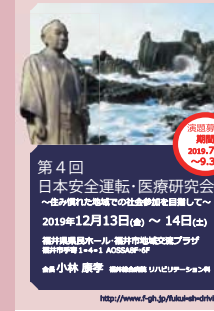
参加者31名

10月25日に第3回就労支援研修会を開催しましたが、この日は千葉県が豪雨災害に見舞われたため、その再演として第4回研修会を開催しました。当日はさわやかな晴天に恵まれ、就労を支援に携わっている多くのみなさまにご参加いただくことができました。千葉リハスタッフによる高次脳機能障害概論および就労支援の講演に続いて、就労支援センターひゅーまにあ千葉中央の伊藤様より事例報告がありました。アンケートの結果、9割の方から「大変役に立った」と回答があり、「基礎から就労につながるプロセスやポイントがわかった」「学びを是非活用したい」「具体的なアプローチ(症例)が参考になった」などのコメントが寄せられました。

第4回日本安全運転・医療研究会
～住みなれた地域での社会参加を目指して～

2019.12.13-14

福井県県民ホール・福井市地域交流プラザ



本研究会は、福井医療大学小林康孝副学長を大会長に、はじめて福井県で行われ熱気のある2日間となりました。大会長講演、2つの特別講演と4つの教育講演、シンポジウム、76題の一般演題発表と、地域トピックスとして「自動走行の実用化に向けた永平寺の取り組み」「自動車交通依存度の高い社会からの脱着に向けた富山市の取り組み」といった開催地ならではの取り組みを盛り込んだ魅力あるプログラムでした。千葉リハからはシンポジウム「作業療法士としての障害者運転支援」にシンポジストを派遣し協力を行いました。高次脳機能障害をはじめ、高齢者・障害者と自動車運転は社会的な関心が高い重要な課題です。今後も多職種・多機関連携により取り組みを強める必要があります。このため、本研究会世話人会では研究会の学会化を目指すことが承認されました。次回の第5回研究会(渡邊修大会長)は、2021年1月24日、東京都一橋講堂にて開催予定です。

参加者112名

第16回高次脳機能障害リハビリテーション講習会
高次脳機能障害者は主体性が重要

2020.1.25 13:00-16:00 千葉市文化センター アートホール



長谷川幹氏

参加者140名

第16回の講習会は長谷川幹氏をお招きして開催いたしました。前半は長谷川先生に「高次脳機能障害者は主体性が重要」というテーマで、障害者本人が主体性を向上させていくには自身の状態を、時間をかけて理解し自らを客観視できるようになることが重要であり、そうなるための家族のかかわり方など丁寧に講演していただきました。後半は「職場の理解を得るために」のテーマで三名のシンポジストの方々に実際の体験談などを交えながらお話して頂きました。また質疑応答の場面では、活発な意見が交わされました。7割近くの方が初参加という結果に、毎回ですが講習会の必要性を強く感じました。